

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.249

2026. 7. 3

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

《署名にご協力ください！》

「私たちは戦争につながる憲法改悪に反対します」－憲法9条改悪に反対する請願署名－

※署名用紙やチラシをご希望の場合は岩手県生協連まで。

9条の会として新たな署名で今こそ運動を —九条の会東北交流会開催報告—

5月30日に、毎年各県持ち回りで開催している「九条の会東北交流会」を福島市で開催しました。オンライン含め100人以上が参加。盛岡市内を含む東北各県では、サテライト会場もつくって視聴しました。

第1部では、渡辺治さん（一橋大学名誉教授・九条の会事務局）が、「高市政権による9条改憲・戦争準備の企てにいかに向かうか」と題して講演しました。

渡辺さんは、現在の軍拡や戦争準備の背景には、米国の世界戦略の転換や高市首相の「軍事強国」の野望があると説明。自衛隊の憲法明記は災害救助ではなく「戦争する軍隊」の明記であり、緊急事態条項の創設は明治憲法の緊急勅令の再来だと危険性を語りました。

戦後日本の戦争参加を止めてきた9条の役割や、台湾



問題平和的解決のために日本が米中の仲介をする重要性を強調し、「高市政権の改憲に危機感を抱く若者の運動が広がっている。九条の会として新たな署名を持って今こそ運動に立ち上がろう」と訴えました。



第2部では東北各県からの報告交流を実施。岩手からは矢巾九条の会が報告し、集会や宣伝行動、書籍やステッカー・看板の作成など、結成から20年の活動を紹介しました。

最後に、9条改憲・戦争準備に突き進む高市政権が倒れるまで国会内外で行動しようとするアピールが採択されました。

参加者からは、「現政権や政治家への不信感から参加した。日本国憲法の価値を理解し、改悪に反対するためにも、社会の動向への注視や政権の発言に関する学習を続ける必要性を感じた」「憲法9条への自衛隊明記の危険性をさらに宣伝・学習していくべき」「先日多くの自治体と懇談したが、改憲論に対して危機感を持たず「他人事」のように捉える対応に驚いた。人任せにせず、自分たちが行動を起こしていかなければならない」「各県の報告が参考になり、やる気をもらった」などの感想が出されました。

来年は、山形での開催です。

見逃し配信はこちら⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=5li1pfHK8Z8&t=53s>



《お知らせ》

◇九条の会ブックレット新刊「高市政権の改憲策動に抗して」発行

2026年4月3日発行 A5判・116頁 1冊600円（送料別）

講演1・渡辺治「高市政権とは何かー高市政権のねらい、危険性と弱点」

講演2・小沢隆一「高市政権の危険な憲法政策」

1月31日九条の会事務局講演会をもとに、新たに書き下ろした原稿です。

ぜひ学習に活用ください。

◇購入ご希望の場合は1冊500円（送料込）でお譲りします。ご注文は岩手県生協連まで。



戦争や紛争・貧困や差別がない社会を ～5／30 平和憲法を守る県南のつどい～

「うたごえは平和の力！」をとして、一関市内の合唱団「一関うたごえセンターめろでい」と「コールなのはな」の歌声で開幕。菅野実行委員長が「先の大戦で2万4千人が出征し、4,606人の戦没者、今も異郷の地で眠っている人もいる」という一関市公報を紹介し、戦争反対の力となる9条を守る署名を広げようと呼びかけました。

記念講演は「私たちの暮らし・平和を考える」と題して、岩手県生協連専務理事の吉田敏恵さんが行いました。吉田さんは「自民党は憲法9条を改悪しようと狙っているが、世論調査では64%の国民が改悪に反対していること」や、「日本の労働者の実質賃金が30年以上も上がっていないのは、今の政府が進めている新自由主義の政策が原因であり、労働者・国民の力で打破できる」と強調しました。

講演につづいて、地域から活動報告がありました。高校生平和大使派遣に長く取り組んでいる憲法をいかし広げる一関の会から小野寺郁郎さんと、5月3日に結成した大東九条の会から菊地和夫さんが行いました。

今年で34回目となったこのつどいには、160人が参加。来年の第35回は節目としてさらに企画を練り大きく広げようと、実行委員会は決意しています。（菅野恒信）



コラム — 戦争は嫌だね（その2） —

前号は、「戦争は嫌だね！（その1）」で、他紙からの引用文で「嫌だね！」を示しました。

（前号より抜粋）

「米、イラン再攻撃延期」「湾岸諸国から要請」【ワシントン、イスタンブール共同＝日出間翔平、横田晋作 岩手日報 '26・05・20 より】

トランプ米大統領は18日、イランへの再攻撃を19日に予定していたが、米軍に延期を指示したと明らかにした。交流サイト（SNS）でカタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）のペルシャ湾岸諸国の首脳から、イランとの戦闘終結へ「受け入れ可能な合意」が成立する可能性があり、見送りを要請されたと説明。合意に至らない場合に備え全面攻撃の準備も命じたと強調した

【主張】（イラン攻撃2カ月）「米は無法をやめて交渉に着け」【'26・04・28 しんぶん赤旗より】
米国とイスラエルがイランに先制攻撃を開始してから28日で2カ月になります。戦闘終結に向けてパキスタンが仲介する交渉は、1回目は決裂した後、再交渉が実現していません。最大の問題は、海上封鎖など、米国がイランに対する無法行為を続けていることです。米国がいつさいの軍事攻撃を止め、今後も攻撃をしない保証をすることが交渉を進める大前提です。

アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃（戦争）も今は「戦争終結」を目指す「覚書」により「折衝」が行われているところであります。

コラム子は（その1）の視点から、その順調な進展を来していると期待しているところであります。国際社会の市民運動も、岩手の市民運動もその「順調な進展」を注視して行きましょう！（T）

「7月の岩手の会街宣行動」

9日(木)12:15～12:45
盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください！

